



# 人の輪と集落の和

平成28年度事業報告書 平成29年度事業計画書



## 目 次

○ ごあいさつ	1
○ 第18回通常総会次第	2
○ 第18回通常総会提出議案	3
○ 平成28年度事業報告書	
部門別事業報告	4～13
貸借対照表	14
損益計算書	15～17
平成28年度剰余金処分案	18
附属明細書	19～20
監査報告書	21
○ 第七次3ヵ年事業計画	22
○ 平成29年度事業計画書	23～29
○ 議案資料	30
○ 組織図	31

## 組合員のみなさまへ

第18回通常総会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年度は、「変革」と「創造」を基本テーマとした「第六次3ヵ年計画」の最終年となりました。持続可能な組織体制の確立、販路の拡大と営業力の強化、人材の育成と後継者の育成、利益配当のできる財務基盤の確立を基本方針とし、日々事業に取り組んでまいりました。

この1年間の結果につきましては、後ほど担当の理事より報告をさせていただきますが、注目すべきは「有機JAS」認証の取得であります。

5年前から取り組み、認証に向けての手続きは大変だったと思いますが、担当役員が頑張ってくれました結果、8月3日に認定を受けることができました。

収量的にはまだまだでしたが、有機米を取り扱う米穀店との取引ができたことは幸いです。これからの努力次第で収量が上がることにより、酒人ふぁ～むのブランド米として定着することを望むものです。

その他の事業も、十分な成果は出ておりませんが、「継続は力なり」の言葉どおり、これまで組合員の皆様と培ってきた力を信じて、これからも事業の継続に取り組んでいきたいと思っております。

これから3ヵ年の「第七次3ヵ年計画」を新たに策定し、目標に向かって事業を進めてまいりますので、組合員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

新たな基本テーマを「不易流行（ふえきりゅうこう）」と、させていただきます。年配者の知恵と若者の機動力を生かす現在の仕組みの良さを残しながら、新しい変化を取り入れ、新しい事業にも積極的に挑戦してまいります。

たとえば、将来的な計画ではありますが、今話題のドローンを導入し、肥培管理の省力化に活用することを考えています。また、導入にあたっては、操縦の資格が必要となりますので、担い手である若いオペレーターには、ドローンを含む農業機械の免許・資格取得に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本日お集まりの組合員の皆様には、日頃何かと当組合にご協力いただきありがとうございます。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻をお願いして、言葉足らずではございますが私の挨拶とさせていただきます。

平成29年2月26日

**人は、人の為に成らずして、人にあらず**

農事組合法人 酒人ふぁ～む

代表理事

## 第18回通常総会次第

と き：平成29年2月26日（日）

午後1時30分より

ところ：酒人公民館 1階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

（ 休 憩 ）

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	55人	出席人数	人
------	-----	------	---

## 第18回通常総会提出議案

- 第1号議案** 平成28年度事業報告について  
平成28年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、  
剰余金処分案及び附属明細書の承認について
- 第2号議案** 第七次3ヵ年事業計画  
(平成29年度～平成31年度)  
および平成29年度事業計画の承認について
- 第3号議案** 役員報酬(手当)枠の承認について

**附帯決議** この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成29年2月26日

農事組合法人 酒人ふあ～む  
代表理事

# 平成 28 年度事業報告

## 生産部

### 1. 穀類生産概要

米、麦、大豆に野菜を加え、水田をフル活用するための2年3作体系を継続実施し、米においては「環境こだわり農産物」として農薬・化学肥料の使用を通常の5割以下での特色ある栽培をしました。また、平成30年産から実施される米政策改革（米の直接支払交付金の廃止）を見据えた取り組みとして、経営面積42.5haのうち主食用米20.2ha、転作作物（麦、大豆、野菜等）22.3ha（転作率52.4%）の作付けをしました。

#### 1) 水稻

植付時期と収穫時期を分散し、作業を平準化するため8品種を環境こだわり米として作付けをしました。本年はJAこうかの契約業務用米「きぬむすめ」の作付面積を1.9haとし、低コスト栽培に取り組みました。また、滋賀県の育成品種であり早生品種「みずかがみ」は、平成27年産米食味ランキングで「特A」の評価を受けたことから作付面積を3.7haとし、地蔵盆すぎから収穫をして作業時期を分散しました。乾燥調製は、玄米の色選別機を導入していることから、羽二重もちを除き、一等米として出荷しました。



なお、環境に配慮した栽培管理をおこなう「有機JAS認定作物」の認証を得たことから栽培面積を0.87ha（前年0.46ha）とし、除草機等を活用しましたが、雑草を抑えきれず収穫量は残念な結果となりました。しかし、販売は有機米の取扱に特化した販売店へ出荷することで、付加価値の付いた価格となりました。

#### 2) 小麦

平成27年10月からは、圃場準備・播種時期にかけて降水量が極めて少なく、圃場が乾燥した状態での播種となりました。11月から12月の平均気温も過去最高であったため、莖数も多く草丈も長くなり、12月には幼穂が確認されるなど生育が平年以上の早さで進みました。

しかし、1月下旬から2月上旬及び3月中旬の寒波の影響で凍霜害や黒節病が発生し、無効分けつが多くなり穂数が少なく、生育のバラツキが目立ちました。5月以降は天候に恵まれ赤カビ病の発生もなく、6月中旬に梅雨の晴れ間をつき収穫を終えたものの、黒節病や遅れ穂による未熟粒などで収量・品質ともに前年を下回りました。

#### 3) 大豆

主枝のつるボケを防止するため、平年より遅い7月中旬に播種をしました。初期生育は順調で栽培管理に最も重要な除草・中耕培土作業を3回実施しまし

たが、8月の少雨と高温により一部の圃場で水分不足による生育不良となりました。

また、8月以降の高温と少雨により害虫（ハスモンヨトウ）の食害発生が例年以上となり3回殺虫剤を散布しました。また、除草効果の低かった種子栽培の圃場においては、雑草の手取りをおこない品質向上に努めました。

なお、本年導入した大豆選別機と色選別機との併用で選別費用と選別作業の軽減が図れましたが、最後の仕上げは、すこやか・なごやかグループの熟練技と眼力による手作業に委ね、品質・収量ともに前年を上回りました。

## 2. 和牛飼料用稲わら生産概要

8月下旬からの早生品種収穫後は、水ハケの良い圃場（12圃場7.1ha）においては好天に恵まれ効率よく収集できましたが、晩生品種の収穫期は定期的に降雨があり、圃場と稲わらが十分に乾燥せず、梱包すると保管中にカビが発生し、品質が低下することから、やむなく収集を断念しました。

## 3. 野菜等生産概要

露地野菜は、JA育苗センターの野菜苗（セルトレイ苗）を定植機で植付し、こまめな栽培管理による適期防除・除草など、低コスト栽培を実施しました。



【白ネギ】 1月～3月出荷

JAブランドの「忍ねぎ」としてまた、規格外は加工用として出荷。

【白菜】 1月出荷、12月出荷

高温によるアブラ虫の発生により出荷量は減少。

【キャベツ】 契約栽培2月～3月出荷

鉄コンテナ（200kg詰め）で効率的に出荷。高温・過乾燥による生育障害がキャベツ内部に発生し、一部出荷を断念。

【ブロッコリー】 1月～3月出荷、11月～12月出荷

花野果市、ここぴあ等へのお荷。

【たまねぎ】 契約栽培6月出荷

べと病が発生したものの、堆肥投入の効果により平年並みの収穫量を確保。

【ハウス野菜】

小松菜の周年栽培（年5回の播種）、ジャンボピーマン（8月～11月出荷）

【小菊】 7月～9月出荷、12月出荷

7月の大雨で畑が水没し、一部の苗が枯れる。盆用・彼岸用の仏花として出荷。12月は、寒菊を正月用の仏花として出荷。

【イチジク】

樹木の老朽とカミキリ虫による樹木の食害やスリップ虫の成熟果への侵入により、出荷を断念。

## 4. 生産実績

### 1) 穀類生産実績

水 稲	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	袋 (30kg)	俵/反 (10a)		収量 (kg)	袋 (30kg)	俵/反 (10a)
うるち玄米	1,786.0	91,100	3,040.0	8.5	1,734.0	91,542	3,049	8.79
もち(羽二重)玄米	236.7	11,400	380.0	8.0	196.1	8,435	281	7.16
有機米					87.6	1,550	51	2.95
合 計	2,022.7	102,500	3,420.0	8.4	2,017.7	101,527	3,381	8.39

小 麦	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反 (10a)		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反 (10a)
農林61号	1,739.0	57,400	956	5.5	1,739.0	47,393	790	4.54
合 計	1,739.0	57,400	956	5.5	1,739.0	47,393	790	4.54

大 豆 (ふくゆたか)	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反 (10a)		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反 (10a)
種子用	1,275.4	22,960	380	3.0	1,275.6	28,080	468	3.67
一般用	733.7	13,200	220	3.0	787.1	10,000	166	2.27
合 計	2,009.1	36,160	600	3.0	2,062.7	38,080	634	3.15

### 2) 野菜等生産実績

		計 画				実 績			
		栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
			収量 (kg)	箱・kg	箱/反 (10a)		収量 (kg)	数量	kg/反 (10a)
水田露地・畑	ブロッコリー	40.0	2,000	500箱	166箱	30.0	2,200	6,480個	733
	はくさい	30.0	15,000	1,000箱	333箱	30.0	11,700	4,680個	3,900
	キャベツ	40.0	16,000	60コンテナ	20コンテナ	40.0	14,100	7,050個	3,525
	いちじく	23.6		4,200パック	1,800パック	23.6	0	0	0
	白ねぎ	50.0	10,000	600箱	200箱	30.0	5,580	内 忍ねぎ 5,300袋	1,860
	たまねぎ	20.0	7,000			15.0	2,890		1,926
ハウス	小菊	5.0		5,000束	10,000束	4.0		2,300束	
	こまつな	20.0		13,000袋	6,500袋	15.0		12,325袋	
	ピーマン					2.0	497		
	くん炭							62袋	

※実績数値については、出荷日ベースでの生産量を上げています。

※同一品目でも出荷時の荷姿が異なるため数量は、束、箱、袋で記載しています。



### 3) 和牛飼料用稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

	計 画				実 績			
	採集 面積 (a)	生産量			採集 面積 (a)	生産量		
		収集量 (kg)	梱包 (7 kg)	梱包/反		収集量 (kg)	梱包	梱包/反
飼料用稲わら	1,500	42,000	6,000	40	710.0	20,374	3,066	43.2
合 計	1,500	42,000	6,000	40	710.0	20,374	3,066	43.2

## 5. 労務時間実績

	計画	実 績 (単位：時間)					計画比 (%)	
		役員、 オペ	すこ やか	なご やか	合同 手選別	合 計		
穀 類	水 稻	2,470	2,411	113	29	0	2,583	104.6
	小 麦	700	710	0	0	0	710	101.4
	大 豆	740	695	0	0	0	695	93.9
	大豆機械選別	----	885	0	0	0	885	----
	大豆手選別	2,950	0	981	18	1,878	2,877	97.5
	稲 わら	420	169	36	0	0	205	48.8
	小 計	7,280	4,900	1,130	47	1,878	7,955	109.3
野 菜 等	野菜, 果樹	4,840	1,266	1,400	2,120	0	4,786	98.9
	小 菊	980	41	573	629	0	1,243	126.8
	小 計	5,820	1,307	1,973	2,749	0	6,029	103.6
共 通	1,000	907	7	6	0	920	92.0	
合 計	14,100	7,114	3,110	2,802	1,878	14,904	105.7	

#### ※特記事項

- ・年度(1～12月)に投下した時間実績
- ・本年度から大豆の機械選別を実施(前年度はJAへ作業委託)
- ・石拾い作業 400時間
- ・草刈り作業 720時間



## 営 業 部

米のJA出荷分におきましては前年より米価が上がり計画通りの売り上げを達成することができました。直販に関しましてはJAS認定有機米のルート販売ができましたが、区内における飯米の受注の減少傾向は続いております。

野菜におきましては、小松菜以外は計画に対して未達となりました。

今後とも各グループや生産部と連携を組み、増収を目指してまいります。

### ①穀類市場（マーケット）別実績

水 稻		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
J A	うるち玄米	870	8,160	7,100	837	11,720	9,806	138%
	もち(羽二重)玄米	170	14,200	2,400	135	15,460	2,087	87%
	過年度精算						2,519	
	小 計	1,040		9,500	972		14,412	152%
直 販	うるち玄米	650	16,000	10,400	585	17,100	10,003	96%
	有機JAS米				25	20,000	500	
	もち(羽二重)玄米	20	20,000	400	5	21,000	105	26%
	小 計	670		10,800	615		10,608	98%
合計		1,710		20,300	1,587		25,020	123%

小麦 農林61号		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
JA		956	1,570	1,500	790	583	461	31%
共済金							1,537	
過年度精算							482	
合計		956		1,500	790		2,480	165%

大豆 ふくゆたか		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
種 子 用		380	27,600	10,500	468	28,000	13,104	125%
食 糧 用		220	2,270	500	166	2,000	332	66%
過年度精算							1,782	
小 計		600		11,000	634		15,218	138%

②野菜栽培形態別販売実績

野菜	計 画			実 績			
	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	対比 (%)
露 地	ブロッコリー	660箱	1,515	1,000		963	96%
	白菜	1000箱	800	800		549	69%
	キャベツ	80コンテナ	11,250	900		832	92%
	いちじく	1000パック	400	400		0	0%
	白ネギ	1000箱	2,000	2,000		1,026	51%
	小菊	5000束	250	1,250		262	21%
	玉ねぎ	7000kg	143	1,000		302	30%
	小 計			7,350		3,941	54%
ハ ウ ス	小松菜	13000袋	100	1,000		1,133	113%
	くん炭			200		23	12%
	小菊			250		185	74%
	ピーマン			200		170	85%
	小 計			1,650		1,511	92%
合 計			9,000		5,452	61%	

野菜市場（マーケット）別販売実績

数量単位：束・箱・個

品 目	J A				直 販				合 計	
	大津・京都市場 出荷		学校給食・ 平和堂JA契約		花野果市 JA直売所		イベント・直売			
	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)
ブロッコリー	124	345			3,100	498		120		963
白 菜	660	448			277	61		40		549
キャベツ	14,000	794			46	6		32		832
玉ねぎ	2,890	302								302
白ネギ	242	881			449	54		91		1,026
小松菜	1,950	141	4,590	297	5,785	678		17		1,133
くんたん					62	23				23
小菊	90	3			900	247		197		447
ピーマン	497	147			44	7		16		170
合 計		3,061		297		1,581		513		5,452

※JA＝市場等へのJAを通じた販売（学校給食含む）

※直販＝直売所、ネット等を通じた直接販売

③和牛飼料用稲わら販売実績（JA稲わら生産供給組合）

稲 わ ら	業 販		出荷量 (kg)	※出荷単価 (円/kg)	販売高 (円)
	飼料用 稲わら	配 達	20,374	50	1,018,700
		引 取			
合 計		20,374		1,018,700	
売上合計					1,018,700

実績・パレットによる重量出荷

## 機械施設部

政府の農業政策の見直し等により農業情勢は厳しい状況になっております。こうした中で、昨年度は「平成 27 年度経営育成支援事業」により田植機とトラクターを導入することが出来ました。今年度は「平成 28 年度担い手確保・経営強化支援事業」が採択され、丸山ハイクリブーム、大豆選別選粒機、ロータ溝掘り機を導入することができました。幸い2年続けて補助金交付を受けることができましたが、補助金交付を受けるには厳しい条件があり、これも「酒人ふぁ〜む」の先進的な取り組みと、組合員みなさんの協力によるものと考えます。

農業機械を多く使用しているため燃料の使用量が大量になります。軽油には軽油税がかかってきますが、農業機械に使用する場合には軽油税の免除の制度があり、申請することにより免税を受けることができます。軽油免税券は、昨年までは7,000ℓ分申請していましたが、毎年年度末には軽油免税券がなくなる状況であったため、今年県と交渉を行い9,000ℓ分の軽油免税券を申請することができました。このことにより、わずかではありますが、経費削減ができました。

今後も更新の時期が近づいている機械が増えてきている為、資金面も含め企画管理部と調整していきます。

「平成 28 年度 担い手確保・経営強化支援事業」による機械導入

物 件	台	取得額	交付助成金	借入額
丸山ハイクリブーム BSA650CE6-1	1	6,642,000	3,321,000	3,321,000
大豆選別選粒機	1	2,160,000	1,080,000	1,080,000
ロータ溝掘り機	1	787,320	393,660	393,660





月 日	来 視 先	内 容	人数
9/15		先進事例視察	1
9/29		先進事例視察	22
10/21		先進事例視察	19
10/29		先進事例視察	15
11/ 8		学術調査	2
11/11		先進事例視察	3
11/12		先進事例視察	20
11/15		先進事例視察	24
合 計	16先 (前年度比 -15先)	250人 (前年度比-245人)	

【平成28年度 講師派遣】

月 日	派遣先	主 催	内 容
2/ 8	前橋市		講演会
3/ 9	仙台市		講演会
12/ 3	石川県		連絡協議会設立
12/ 6	豊岡市		研修会

【平成28年度 受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1/14	農業法人合同従業員研修会		講演 視察研修
1/27	花野果倶楽部		視察研修
2/ 6	甲賀地域農業者のつどい		講演 事例紹介
2/ 9	大規模稲作経営者部会		役員会
2/16	(株)ハチバン工場見学		視察研修
2/18	水口良質米研究会総会		研修会
2/24	J Aいちじく生産部会		研修会
2/26	J A全農しが農業機械展示会		展示会
2/29	滋賀県園芸振興大会		花き野菜果樹
3/ 2	春作業機械オペレーター研修会		研修
3/ 4	J Aこうか大規模稲作経営者部会		総会
3/ 6	(株)近江園田ふぁーむ、(有)フクハラファーム		視察研修
3/10	甲賀地域集落営農法人連絡協議会		総会
3/12	有機認定講習会		講習会
3/14	花野果倶楽部		総会
3/17	クボタ・きんき未来農業		展示試乗会
3/24	忍美青椒・忍玉西瓜現地研修会		研修
	J Aこうか花卉部会		研修
3/29	忍葱視察研修会		研修
4/ 8	水口良質米研究会総会		総会
4/13	J Aこうか花卉部会		総会
4/15	J Aいちじく生産部会		総会
4/22	J Aこうか露地野菜部会		総会

月 日	研 修	出 席 者	内 容
4/26	みずかがみ栽培研修会		研修
4/27	大規模稲作経営者部会		役員会
4/28	甲賀市農業再生協議会		総会
5/25	契約タマネギ出荷調整会議		会議
	忍葱定植研修会		研修
6/ 3	滋賀県花き園芸協会きく部会		総会・研修会
6/25	J A特別栽培米生産部会		研修
	水口良質米研究会総会		研修
6/27	J Aいちじく生産部会		現地研修会
7/ 2	あぜみちモーニングスクール (稲作圃場研修会)		現地研修会
7/ 5	J Aこうか花卉部会		研修会
	忍美青椒・忍玉西瓜現地研修会		現地研修会
7/ 6	契約キャベツ栽培研修会		研修会
7/13	J Aこうか花卉部会栽培技術研修会		現地研修会
7/15	J Aいちじく生産部会		現地研修会
7/20	J Aこうか花卉部会		研修会
7/22	J Aこうか露地野菜部会		作付会議研修
7/26	民間稲作研究所認証センター		実地検査
7/27	大豆種子採種計画会議		会議
	果樹栽培研修会 (管内見学)		研修会
8/ 2	大規模稲作経営者部会		懇談会
8/ 3	秋作業機械オペレーター研修会		研修会
8/18	果樹栽培研修会 (県農業技術振興センター)		研修会
8/19	甲賀地域集落営農法人連絡協議会		研修会
8/22	契約タマネギ栽培研修会		研修会
8/24	水口良質米研究会総会		研修会
9/ 8	大豆指定種子生産ほ場審査		審査
9/14	忍葱現地研修会		現地研修会
9/27	園芸講座 (冬春期野菜)		講座
10/17	麦栽培研修会		研修会
10/21	J Aこうか露地野菜部会		現地研修会
10/25	J Aこうか花卉部会		研修会
10/27	甲賀地域集落営農法人連絡協議会		視察研修
11/ 2	稲わら生産供給組合		総会
11/11	J Aグループ滋賀農業機械大展示会		展示会
11/15	J Aいちじく生産部会		研修会
11/24	忍葱出荷調整会議		目合わせ
11/29	契約キャベツ出荷調整会議		目合わせ
12/ 6	甲賀地域集落営農法人連絡協議会		現地研修会
12/14	果樹 (ぶどう・梨) 視察研修会		研修会

# 貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

平成28年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>	71,421,774	<b>【流動負債】</b>	8,311,261
現金・預金	39,039,607	未払金	7,251,321
売掛金	10,648,896	預り金	126,000
農産物	1,165,500	リース債務	748,440
棚卸品	1,534,038	未払法人税	185,500
未収金	3,530,000	<b>【固定負債】</b>	61,342,448
仮払金	15,503,733	長期借入金	28,830,000
<b>【固定資産】</b>	38,333,015	長期リース債務	1,942,416
<b>【有形固定資産】</b>	36,944,773	農業経営基盤強化準備金	30,570,032
建築物	44,615,395	負債の部合計	69,653,709
構築物	5,096,432	純資産の部	
機械装置	20,405,117	<b>【資本金】</b>	13,530,000
農機具	34,670,743	出資金	13,530,000
車両運搬具	4,725,400	<b>【利益剰余金】</b>	26,571,080
工具器具備品	1,104,000	利益準備金	8,079,157
減価償却累計額	△81,755,757	当期末処分剰余金	18,491,923
土地	2,844,363		
リース資産	5,239,080		
<b>【投資その他の資産】</b>	1,388,242		
外部出資金	50,000		
差入保証金	14,670		
保険積立金	1,323,572		
		純資産の部合計	40,101,080
資産の部合計	109,754,789	負債・純資産合計	109,754,789



# 損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販    売    高	49,503,335	
奨    励    助    成    金	23,702,981	
販    売    高    合    計		73,206,316
【事業費用】		
【生産原価】		
当    期    商    品    仕    入    高	119,672	
期    首    農    産    物    棚    卸    高	569,100	
当    期    農    産    物    原    価	37,652,773	
合                    計	38,341,545	
期    末    農    産    物    棚    卸    高	1,165,500	
事    業    原    価	37,176,045	37,176,045
事    業    総    利    益		36,030,271
【事業管理費】		
事    業    管    理    費    合    計	3,580,276	3,580,276
事    業    利    益		32,449,995
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受    取    利    息    等	3,314	
雑    収    入	651,635	
事    業    外    収    益    合    計		654,949
【事業外費用】		
支    払    利    息    等	307,785	
事    業    外    費    用    合    計		307,785
経    常    利    益    金    額		32,797,159
【特別損益の部】		
【特別利益】		
固    定    資    産    売    却    益		
農    業    経    営    基    盤    強    化    準    備    金    取    崩    益	12,854,260	
そ    の    他    特    別    利    益	10,795,299	
特    別    利    益    合    計		23,649,559
【特別損失】		
固    定    資    産    除    却    損	19,474	
固    定    資    産    圧    縮    損	20,205,254	
農    業    経    営    基    盤    強    化    準    備    金    繰    入	17,106,335	
特    別    損    失    合    計		37,331,063
税    引    前    当    期    純    利    益    金    額		19,115,655
法    人    税    等		623,732
当    期    純    利    益    金    額		18,491,923

# 事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふあーむ

自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
役 員 報 酬	670,000
福 利 厚 生 費	358,677
教 育 ・ 研 修 費	177,480
会 議 費	29,000
旅 費 交 通 費	1,780
通 信 費	177,892
交 際 費	352,462
支 払 手 数 料	7,668
諸 会 費	128,000
水 道 光 熱 費	42,022
事 務 用 消 耗 品 費	230,418
修 繕 費	86,724
租 税 公 課	442,400
雑 費	497,753
税 務 顧 問 料	378,000
事 業 管 理 費 合 計	3,580,276

# 事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 平成28年 1月 1日 至 平成28年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
<b>【総事業費用】</b>		
<b>【資材費】</b>		
種 苗 費	3,548,781	
肥 料 費	5,753,640	
農 薬 費	2,256,371	
諸 材 料 費	894,725	
合 計	12,453,517	
資 材 費 合 計		12,453,517
<b>【労務費】</b>		
農 業 労 災 費	224,661	
労 務 費 合 計		224,661
<b>【その他生産費】</b>		
農 具 費	1,415,961	
作 業 委 託 料	2,328,824	
土 地 改 良 水 利 費	2,624,490	
動 力 光 熱 費	1,865,672	
修 繕 費	4,852,267	
荷 造 運 賃 発 送 費	621,634	
機 械 賃 借 料	23,404	
年 貢 料 ( 借 地 料 )	4,207,729	
農 業 共 済 費	1,510,308	
雑 費	100,864	
減 価 償 却 費	5,423,442	
そ の 他 生 産 費 合 計		24,974,595
当 期 事 業 原 価		37,652,773
合 計		37,652,773
当 期 農 産 物 原 価		37,652,773

# 剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	18,491,923
合 計	18,491,923
これを次のとおり処分する	
利益準備金	1,849,198
従事分量配当金	15,695,625
出資配当金	947,100
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

農事組合法人酒人ふぁーむ

代 表 理 事  
理 事  
理 事  
理 事  
理 事  
理 事  
理 事

# 附属明細書

## 前期実績・事業計画実績対比

自 平成28年1月1日～至 平成28年12月31日

単位:千円

勘定科目	前期実績①		事業計画②		実績額③		前期対比③-①		予算対比③-②	
	金額	@	金額	@	金額	@	金額	@	金額	@
[耕作面積]	換算418.1反		換算425.2反		換算425.2反					
		418.1		425.2		425.2		7.1		0
[事業収益]										
[販売高]										
販売高	45,200	106	44,000	103	49,503	116	4,303	10	5,503	13
奨励・助成金	25,074	59	24,100	57	23,703	56	-1,371	-3	-397	-1
販売高合計	70,094	165	68,100	160	73,206	172	3,112	7	5,106	12
[事業費用]										
[期首農産物棚卸]	141		569		569		428		0	
[商品仕入高]	219		250		120		-99		-130	
[資材費]										
[生]種苗費	2,635	6	2,710	6	3,549	8	914	2	839	2
[生]肥料費	5,457	13	5,566	13	5,754	14	297	1	188	0
[生]農薬費	3,973	9	3,900	9	2,256	5	-1,717	-4	-1,644	-4
[生]諸材料費	772	2	800	2	895	2	123	0	95	0
生産資材費合計	12,837	30	12,976	31	12,454	29	-383	-1	-522	-1
[労務費]										
[生]農業労災費	175	0	0	0	225	1	50	0	225	1
労務費合計	175	0	0	0	225	1	50	0	225	1
[その他生産費]										
[生]動力光熱費	2,127	5	2,420	6	1,866	4	-261	-1	-554	-1
[生]農具費	273	1	300	1	1,416	3	1,143	3	1,116	3
[生]修繕費	6,548	15	5,030	12	4,852	11	-1,696	-4	-178	0
[生]機械賃借料	30	0	40	0	23	0	-7	0	-17	0
[生]年貢料(借地料)	4,104	10	4,100	10	4,208	10	104	0	108	0
[生]作業委託料	3,935	9	4,050	10	2,329	5	-1,606	-4	-1,721	-4
[生]土地改良水利費	2,576	6	2,580	6	2,624	6	48	0	44	0
[生]農業共済費	1,888	4	1,930	5	1,510	4	-378	-1	-420	-1
[生]荷造運賃送料	707	2	850	2	491	1	-216	-1	-359	-1
[生]雑費	90	0	170	0	231	1	141	0	61	0
[生]減価償却費	5,369	13	5,300	12	5,423	13	54	0	123	0
その他生産費合計	27,647	65	26,770	63	24,973	59	-2,674	-6	-1,797	-4
[期末農産物棚卸]	569				1,166		597		-496	
事業費用合計	40,448	95	40,565	95	37,174	87	-3,274	-8	-3,391	-8
[事業総利益]	29,646	70	27,535	65	36,032	85	6,386	15	8,497	20
[生]労務費(従事分量配当)	15,951	38	17,500	41	15,695	37	-256	-1	-1,805	-4
[改め事業総利益]	13,695	32	10,035	24	20,337	48	6,642	16	10,302	24
[事業管理費]										
事業管理費	3,810	10	4,410	10	3,580	8	-230	-1	-830	-2
[事業利益]	9,885	20	5,625	13	16,757	39	6,872	20	11,132	26
[事業外損益]	1,340	3	300		347	1	-993	-2	47	1
[経常利益]	11,225	22	5,925	14	17,104	40	5,879	18	11,179	26

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

## 平成28年度事業実績明細表

自 2016/1/1 ~ 至 2016/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜・ハウス野菜		花卉	合計	前期対比
	202.3反		173.9反		200.9反		20.7反			425.2反	
[耕作面積]	202.3反		173.9反		200.9反		20.7反			425.2反	
[事業収益]											
農産物売上高	25,020	124	2,480	14	15,218	76	5,006	242	446	48,171	5,354
その他売上高	1,254	6	36	0	36	0	5	0	2	1,332	-872
奨励助成金	3,974	20	13,274	76	5,127	26	1,325	64	3	23,703	-1,371
売上高合計	30,249	150	15,790	91	20,381	101	6,336	306	451	73,206	3,112
事業原価											
期首棚卸	569		0		0		0		0	569	428
商品仕入高	22		0		0		81		18	120	-99
[資材費]											
[生]種苗費	1,590	8	533	3	400	2	1,026	50	0	3,549	914
[生]肥料費	1,731	9	3,073	18	0	0	877	42	73	5,754	297
[生]農薬費	936	5	17	0	949	5	306	15	49	2,256	-1,717
[生]諸材料費	603	3	1	0	83	0	159	8	47	895	123
資材費合計	4,861	24	3,623	21	1,432	7	2,368	114	169	12,454	-383
[労務費]											
[生]労災保険費	112	1	52	0	52	0	7	0	2	225	
労務費合計	112	1	52	0	52	0	7	0	2	225	0
[経費]											
[生]動力光熱費	961	5	429	2	429	2	37	2	9	1,866	-262
[生]農具費	729	4	326	2	326	2	28	1	7	1,416	1,143
[生]農具修繕費	2,449	12	1,094	6	1,134	6	152	7	24	4,852	-1,696
[生]機械賃借料	23	0	0	0	0	0	0	0	0	23	-7
[生]年貢料(借地料)	2,104	10	968	6	968	5	126	0	42	4,208	104
[生]作業委託料	126	1	2,190	13	0	0	13	1	0	2,329	-1,606
[生]農業水利費	1,312	6	604	3	604	3	79	4	26	2,624	49
[生]農業共済費	528	3	412	2	540	3	30	1	0	1,510	-378
[生]荷造発送費	37	0	0	0	0	0	454	22	0	491	-215
[生]雑費	69	0	14	0	17	0	131	6	0	231	141
[生]減価償却費	2,793	14	1,247	7	1,247	6	108	5	27	5,423	55
経費合計	11,133	55	7,283	42	5,265	26	1,159	56	136	24,975	-2,671
期末棚卸	1,166		0		0		0		0	1,166	596
事業原価合計	15,531	77	10,958	63	6,749	34	3,614	171	325	37,176	-3,272
事業総利益	14,718	73	4,832	28	13,632	68	2,722	131	127	36,030	6,384
[生]労務費	4,569	23	1,366	8	4,399	22	4,388	212	973	15,696	-255
改め事業総利益	10,149	50	3,466	20	9,233	46	-1,667	-81	-847	20,335	6,640
[事業管理費]	1,844	9	823	5	823	4	72	3	18	3,580	-230
事業利益	8,305	41	2,642	15	8,410	42	-1,738	-84	-865	16,754	6,870
[事業外損益]	179	1	80	0	80	0	7	0	2	347	-993
経常損益	8,484	42	2,722	16	8,490	42	-1,731	-84	-863	17,102	5,877

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

## 第七次3ヵ年事業計画（平成29年度～平成31年度）

### 〔基本テーマ〕

第一次3ヵ年（11年～13年）

「夢・創意・挑戦」 時代にマッチした農業経営

第二次3ヵ年（14年～16年）

「決断」と「実行」 「づくり」の時期

第三次3ヵ年（17年～19年）

「自立」と「自律」 夢（ビジョン）の具現化

第四次3ヵ年（20年～22年）

「農村」と「環境」 「生きていく」新たな挑戦

第五次3ヵ年（23年～25年）

「選択」と「集中」 安定経営への基盤構築

第六次3ヵ年（26年～28年）

「変革」と「創造」 自己変革で第二の創業

第七次3ヵ年（29年～31年）

「不易流行」 本質的なものを忘れない中にも、  
新しい変化を取り入れていく

### 〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり
5. お客様づくり

### 〔基本方針〕

1. 持続可能な組織体制の確立
2. 人材の育成と後継者の育成
3. 販路の拡大と営業力の強化
4. 付加価値の高い商品づくり
5. IT活用による情報共有化

日本の農業・農政は日々変動しており、その変動に対応しつつ、今日まで組合員様のご支援を受けながら酒人の農地を守り続けてまいりました。2年後には創立20周年の節目を迎えることもあり、効率化と収益アップを目指した地産物を使った新たな商品づくりや6次産業化への事業に取り組むことが肝要と考え、事業化について検討してまいります。

# 平成 29 年度事業計画

## 生産部

### (1) 重点方針

#### 1. 生産管理

- ① 米、麦、大豆、野菜を中心とした水田フル活用による作付け体系の継続。
- ② 販売価格の安定した契約業務用米の作付けによる、低コスト栽培の拡大。
- ③ 環境こだわり農産物の生産拡大と有機無農薬による米栽培技術の確立。
- ④ いちじくの改植とハウスを活用したブドウ栽培の取り組み。

#### 2. 労務管理

- ① 生涯現役者の活躍できる場の創設。
- ② 次世代の担い手との接点づくりと技術の継承。

### (2) 生産計画

#### 1) 水 稲

	面積 (a)	生産量			
		総収量 (kg)	袋数 (30 kg)	俵/反 (60k/10a)	kg/反
うるち米	1,929.8	98,400	3,280	8.5	510
もち米	196.1	9,300	310	8.0	480
有機米	87.6	2,700	90	5.0	300
合計	2,213.5	110,400	3,680	8.3	498

#### 2) 小 麦

	面積 (a)	生産量			
		総収量 (kg)	袋数 (30 kg)	俵/反 (60k/10a)	kg/反
農林 61 号	1856.6	61,300	2,040	5.5	330
合計	1856.6	61,300	2,040	5.5	330

#### 3) 大 豆

ふくゆたか	面積 (a)	生産量			
		総収量 (kg)	袋数 (30 kg)	俵/反 (60k/10a)	kg/反
種子用	1,228.0	22,100	740	3.0	180
一般用	622.0	11,200	380	3.0	180
合計	1,850.0	33,300	1,120	3.0	180



#### 4) 野菜・花卉・ハウス野菜・果樹

品 目	面積 (a)	総収量 (kg)	数 量	反あたり
ブロッコリー	50.0	4,500	10,000 個	900 kg (2,000 個)
白 菜	40.0	20,000	8,000 個	5,000 kg (2,000 個)
キャベツ	40.0	20,000	10,000 個	5,000 kg (2,500 個)
白ネギ	50.0	10,000	12,000 袋 <sup>(2入)</sup>	2,000 kg (2,400 袋)
たまねぎ	20.0	7,000		3,500 kg
小松菜 (ハウス)	3.0		13,000 袋	
小菊など花卉類	10.0		5,000 束	

#### 5) 和牛飼料用稲わら

	集荷面積 (a)	総収量 (kg)	数量 (1 梱包 7k)	梱包/反
稲 わ ら 合 計	1,800.0	45,000	6,400	40

### (3) 労務時間計画

		計画	内 訳 (単位：時間)				合 計
			役員 オペレータ	すこやか	なごやか	手選別	
穀 類	水 稻	2,700	2,550	120	30		2,700
	小 麦	700	700				700
	大 豆	700	700				700
	機械選別	800	800				800
	大豆手選別	2,200		800	300	1,100	2,200
	稲 わ ら	400	300	100			400
	小 計	7,500	5,050	1,020	330	1,100	7,500
野 菜	野菜果樹	4,800	1,200	1,600	2,000		4,800
	小 菊	1,000	50	550	400		1,000
	小 計	5,800	1,250	2,150	2,400		5,800
共 通		900	900				900
合 計		14,200	7,200	3,170	2,730	1,100	14,200



# 営 業 部

米国のTPP離脱に伴い、米国とのFTAも視野に入れた外交が展開される今年度は厳しい状況が続くと予想されます。その中で食の安全、安心を消費者の皆様に訴えつつ酒人製品の新たな販売ルートを開拓するとともに安定した酒人ふぁ～むファンの顧客拡大に努めていきます。

### [重点方針]

- 1 酒人米販売の強化
  - ・米穀販売業者の開拓
  - ・宅配等の直販を視野にルート開拓
- 2 酒人特産品の企画販売
  - ・6次産業化に向けた計画立案

### [事業計画]

- 1 低温倉庫の設置
  - ・白米販売の充実（宅配等のルート開拓）
- 2 精米設備等の計画立案

① 29年度穀類市場（マーケット）別販売計画 出荷販売単位：30kg

水	J          A		出荷量 (30kg)	(円/30kg)	販売高 (千円)
		うるち玄米		2,050	5,500
	もち(羽二重)玄米		300	7,500	2,300
	小	計	2,350		13,600
稲	直          販		販売量 (30kg)	(円/30kg)	販売高 (千円)
		うるち玄米	1,710	7,800	13,300
		もち(羽二重)玄米	10	10,500	100
		有機米	90	11,000	1,000
		小	計	1,810	
	合	計	4,160		28,000

小麦	J          A		出荷量 (30kg)	(円/30kg)	販売高 (千円)	
		農林61号		2,040	700	1,400
		合	計	2,040		1,400

大豆	J          A		出荷量 (30kg)	(円/30kg)	販売高 (千円)	
	ふくゆたか	種子用		740	13,000	9,600
		食糧用		380	1,500	600
		小	計	1,120		10,200

② 29年度野菜栽培形態別販売計画

品 目	出 荷 量		売価単価 (円)	販売高 (千円)
ブロッコリー	10,000	個	100	1,000
白菜	8,000	個	100	800
キャベツ	10,000	個	100	1,000
小松菜	13,000	袋	100	1,300
白ネギ	12,000	袋	100	1,200
小菊	5,000	束	240	1,200
玉ねぎ	7,000	kg	140	1,000
合計				7,500

野菜市場（マーケット）別販売計画

数量単位：束・個・袋

品 目	J A				直 販				合計 販売高 (千円)
	大阪・京都市場出荷		学校給食・平 和堂JA契約		花野果市JA直売所		イベント・直売		
	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	数量	販売高 (千円)	
ブロッコリー	4,000	400			5,000	500	1,000	100	1,000
白 菜	7,000	600			800	160	200	40	800
キャベツ	9,000	850			800	120	200	30	1,000
小松菜	2,800	170	4,000	200	6,000	900	200	30	1,300
白ネギ	11,000	1,000			800	170	200	30	1,200
小菊	1,000	200			3,000	760	1,000	240	1,200
玉ねぎ	6,200	880			600	90	200	30	1,000
合 計		4,100		200		2,700		500	7,500

直販＝直売所、ネット等を通じた直接販売

③ 耕畜連携稲わら販売計画（JA甲賀稲わら生産供給組合）

稲 わ ら	業 販	出荷量（梱包）	※出荷単価（円/梱包）	販売高（千円）
	飼料用稲わら	6,400	350	2,240
	合 計	6,400		2,240

※ 1 梱包＝7kgとした場合

## 機械施設部

農業政策の見直し等により、農業情勢は厳しさが増すことが予想されます。こうした中で、本当に必要な投資であるかを吟味し、経費を削減した低コスト農業に努めます。

現有農機は経年により更新が課題となっていますので、各部との連携を密にし、費用対効果を十分に吟味して対応していきます。

### [重点方針]

1. 保有資産の管理
2. 更新機械に対する検討

### [事業計画]

1. 費用対効果を吟味した上での機械導入検討
2. オペレーターの育成（資格の取得）
3. 機械取り扱いに対する意識改革

### 今後の投資予定計画

投資予定資産	予定金額
サタケ業務用纫摺り機	2,000,000
野菜運搬車	730,000
事務所の修繕（格納庫防塵塗装、屋根）	1,500,000
クローラートラクター	10,000,000
低温倉庫等	3,000,000



## 企画管理部

### [重点方針]

1. 「管理」から「企画」・「実践」に重心をおいた部内運営
2. 農業自由化への対応～安定した経営基盤の確立
3. 6次産業化への対応～当地の素材を活かす商品づくり
4. 魅力のある、働きがいのある組織体制づくり

### [具体的実施内容]

#### 1. 長期的に持続可能な農事組合体制の構築

世代別組織による分業体制を基本としつつ、グループ間の協力体制を図り、作業の効率化を図ります。引き続き酒人の農業を守りつつ、持続可能な担い手体制の構築を長期的に検討します。

- ① 将来を見据えた事業内容と効率的な組織体制の改善を推進します。
- ② データを生かした原価管理および収益管理の徹底を図ります。
- ③ 販売ルール・支払ルールを明確化し、厳格な会計処理を維持します。
- ④ 次世代の担い手が参加しやすい環境と持続可能な組織をつくります。

#### 2. 付加価値の高い商品開発にチャレンジ

- ① 昨年、完全有機・無化学肥料米のJAS（日本農林規格協会）の有機農産物（有機JAS）の認定取得をしました。現在「日本晴」のみですが、今後「キヌヒカリ」の生産を行い高付加価値商品としての地域ブランド化を図り、収益アップと販路拡大を目指します。
- ② 地産大豆を活かした「豆腐」や「味噌」の商品づくりを検討します。  
（6次産業化）

#### 3. 貸農園事業を検討

高齢化が進むにつれて畑の空き地が増加することが推測されますので、区内外の農業意欲のある方に広く貸し出し、耕作者と組合とのふれあいの場として利用促進を検討します。

#### 4. 農産物の販売方式の改善検討

注文予約を基調としたデリバリーサービスを行い、高齢者家庭への配達サービスを実施できる体制を構築し、販売量拡大に努めます。

また、当組合が今、何を収穫しているのかわかるよう、無人販売店舗でのピーアールをしてまいります。

#### 5. 安全管理・安全教育

大型農機での作業が大半ですので、より効率的・安全に作業するためにも免許取得を推進してまいります。

#### 6. 周辺環境の整備

事務所・倉庫前通路の防塵化工事（アスファルトと排水路）を農用地改善団体と共に進めてまいります。

平成29年度事業計画明細表

自 2017/1/1 ~ 至 2017/12/31 単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜・ハウス野菜		花卉	合計
[耕作面積]	221.3反		185.7反		185.0反		20.3反		1.0反	428.3反
[事業収益]										
農産物売上高	28,000	127	1,400	8	10,200	55	6,300	310	1,200	47,100
その他売上高	2,240	10	0	0	0	0	0	0	0	2,240
奨励助成金	4,000	18	13,000	70	5,000	27	1,200	59	30	23,230
売上高合計	34,240	155	14,400	78	15,200	82	7,500	369	1,230	72,570
事業原価										
期首棚卸	1,166		0		0		0		0	1,166
商品仕入高	0		0		0		100		0	100
[資材費]										
[生]種苗費	1,600	7	500	3	110	1	500	25	0	2,710
[生]肥料費	1,800	8	3,000	16	0	0	700	34	0	5,500
[生]農薬費	1,000	5	400	2	1,500	8	400	20	0	3,300
[生]諸材料費	600	3	0	0	50	0	350	17	0	1,000
資材費合計	5,000	23	3,900	21	1,660	9	1,950	96	0	12,510
[労務費]										
[生]労災保険費	117	1	50	0	50	0	8	0	1	225
労務費合計	117	1	50	0	50	0	8	0	1	225
[経費]										
[生]動力光熱費	1,248	6	528	3	528	3	84	4	32	2,420
[生]農具費	156	1	66	0	66	0	11	1	2	300
[生]農具修繕費	2,600	12	1,150	6	1,200	6	110	5	55	5,115
[生]機械賃借料	40	0	0	0	0	0	0	0	0	40
[生]年貢料(借地料)	2,132	10	902	0	902	5	144	0	21	4,100
[生]作業委託料	150	1	2,300	12	0	0	50	2	0	2,500
[生]農業水利費	1,365	6	577	0	577	3	92	5	13	2,624
[生]農業共済費	570	3	420	2	550	3	65	3	5	1,610
[生]荷造発送費	50	0	0	0	0	0	150	7	90	290
[生]雑費	96	0	41	0	31	0	52	3	0	220
[生]減価償却費	2,756	12	1,219	7	1,272	7	53	3	27	5,327
経費合計	11,163	50	7,203	39	5,126	28	810	40	244	24,546
期末棚卸	600		0		0		0		0	600
事業原価合計	16,846	76	11,153	60	6,836	37	2,867	136	245	37,947
事業総利益	17,394	79	3,247	17	8,364	45	4,633	228	985	34,623
[生]労務費	4,476	20	1,336	7	4,286	23	4,346	214	967	15,410
改め事業総利益	12,918	58	1,911	10	4,078	22	287	14	18	19,213
[事業管理費]	2,293	10	970	5	970	5	154	8	22	4,410
事業利益	10,625	48	941	5	3,108	17	133	7	-4	14,803
[事業外損益]	390	2	165	1	165	1	26	1	4	750
経常損益	11,015	50	1,106	6	3,273	18	159	8	0	15,553

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

## 第3号議案

### 役員報酬（手当）枠の承認について

役員報酬（手当）枠は、理事、監事、相談役の昨年度における支給実績および事業実績等を考慮し、総額 万円を限度額として承認をお願いするものです。

なお、個々の役員報酬（手当）額の決定および支給方法などについては、理事会に一任頂くことに、併せて承認をお願い致します。

これまで役員手当は、従事分量配当の一部として支給してまいりましたが、税法上、経費とみなされ、従事分量配当とは分離した処理を求められています。

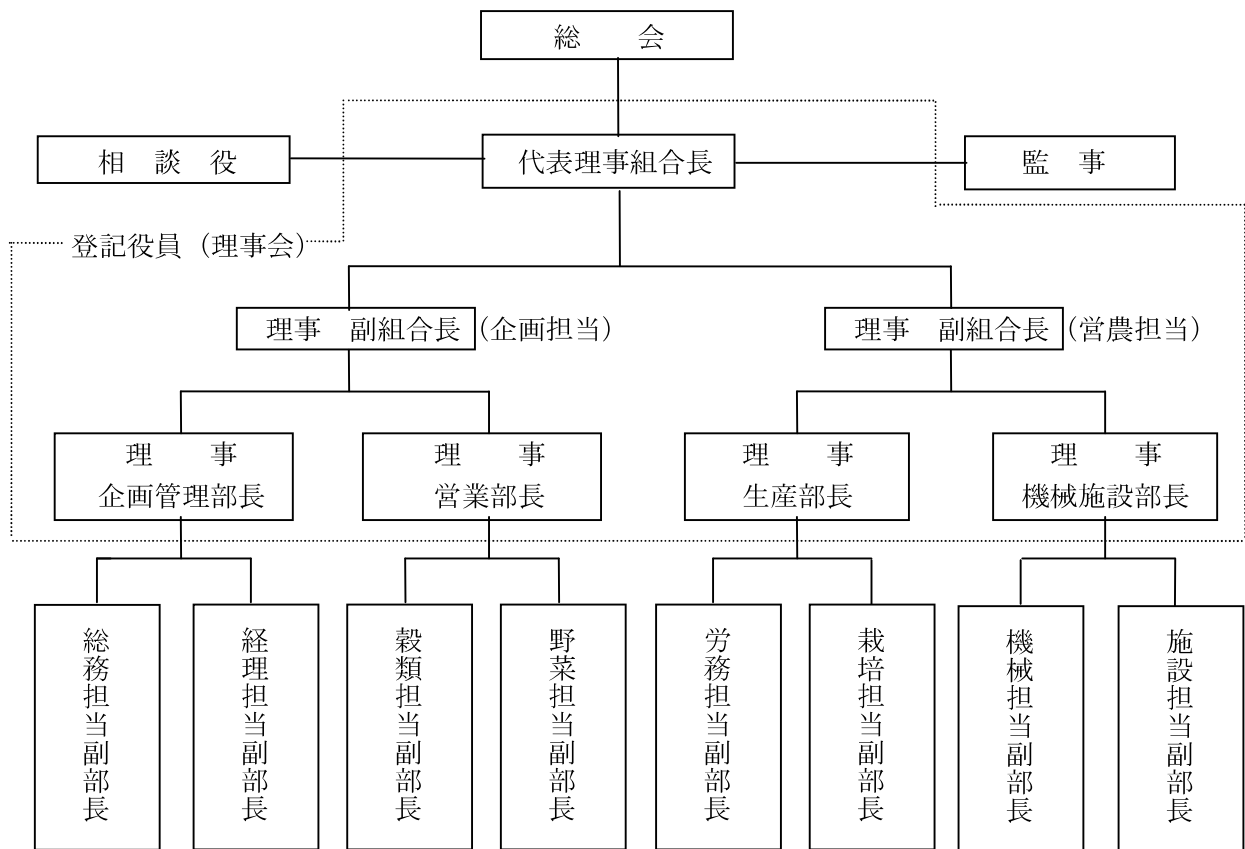
なお、役員報酬は、総会毎の承認が必要となるため、前回と同様に上程させていただくものです。

支給額については、組合員に対する従事分量配当の実績を考慮し、かつ責任手当としての性格とのバランスをとり、慎重に検討してまいる所存です。

なお、役員手当に対する所得税は、源泉徴収させていただくこととなりますので、予めご理解とご協力をお願い申し上げます。

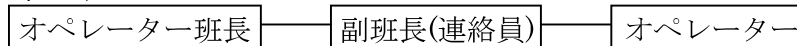
# 農事組合法人酒人ふぁ～む組織図

平成 29 年 2 月 26 日現在



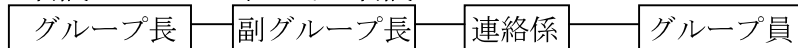
## 酒人ふぁ～む協力組織

### ① オペレーターグループ



☆酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で営農意欲のあるグループ（登録制・60歳時単価見直し）。

### ② なごやか営農グループ・すこやか営農グループ



☆酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務（作業）に出役頂ける、営農意欲のあるグループ。

※なごやか営農グループは、主にハウス野菜と花卉、すこやか営農グループは、主に露地野菜を担当していただいておりますが、現在では、両グループが協力して栽培・作業をされています。





農事組合法人 酒人ふあ〜む

2017/2/26